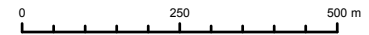


# 小今泉池ハザードマップ

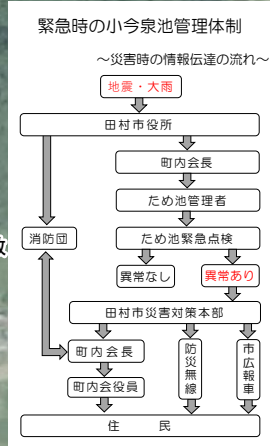
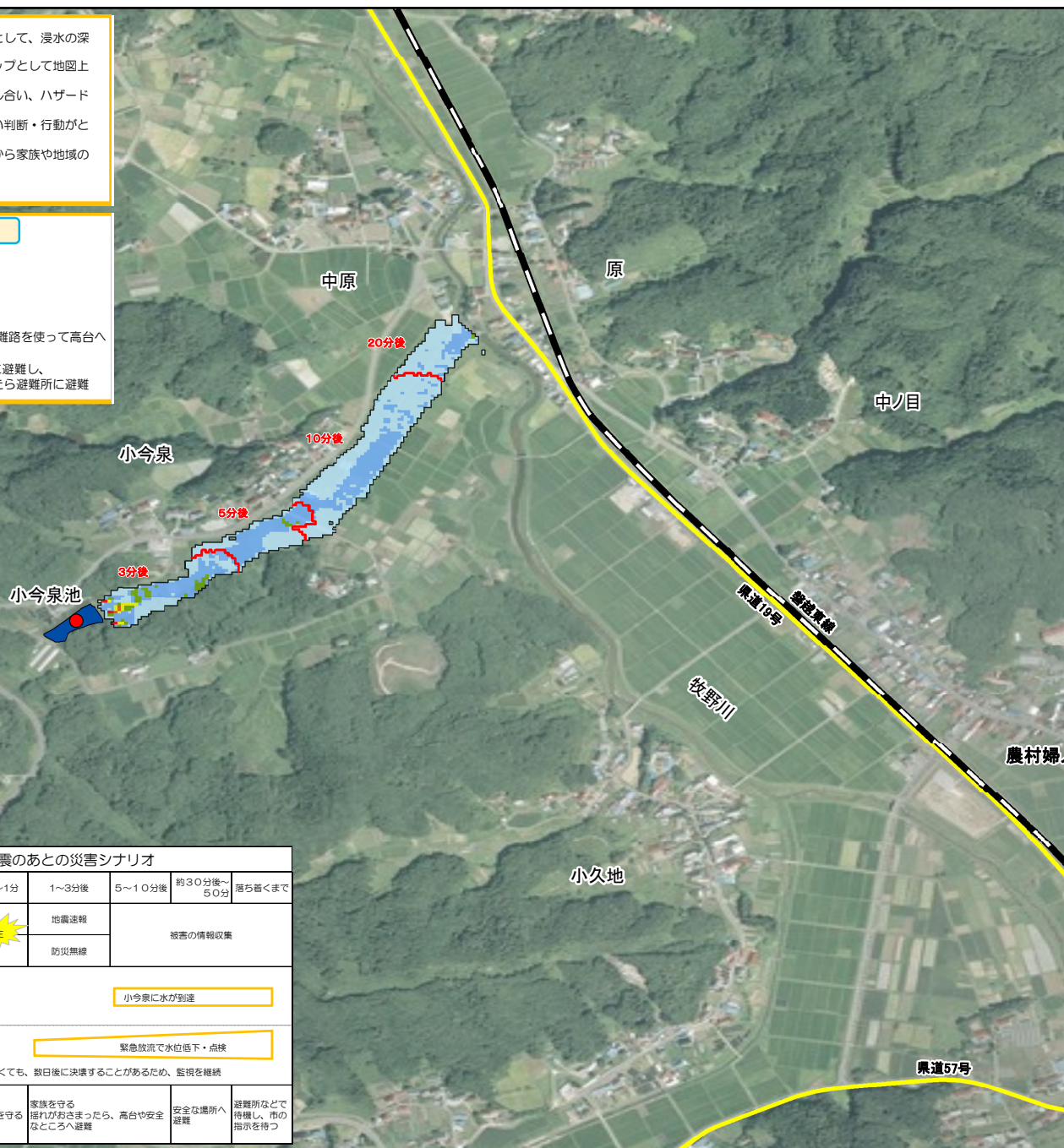
縮尺 1:12,000



小今泉池ハザードマップは、万が一決壊した場合の備えとして、浸水の深さやいざというときの心構え、避難所などをハザードマップとして地図上に整理しました。浸水の特徴を理解して、地域住民が話し合い、ハザードマップを理解することで、いざ防災情報を得た際に正しい判断・行動がとれるようになります。よく目にするところに貼り、普段から家族や地域のみなさんと話し合いましょう。

## いざというときは

- ・ 避難は可能な限り浸水がはじまる前に
- ・ 動きやすい服装で、持ち出し品は最小限に
- ・ 必ず徒歩で！足下に注意して避難
- ・ ため池直下(2.0m~3.0mの水深予想) : 速やかに避難路を使って高台へ
- ・ ため池直下以外(1.0m~2.0mの水深予想): 建物の2階に避難し、水が引いたら避難所に避難



### 凡例

最大浸水深

- 0.0m~0.5m
- 0.5m~1.0m
- 1.0m~1.5m
- 1.5m~2.0m
- 2.0m~3.0m
- 3.0m以上

避難所

ため池

### 地震のあとの災害シナリオ

時間	発生前	数秒~1分	1~3分後	5~10分後	約30分後~50分	落ち着くまで
地震情報	緊急地震速報	発生	地震速報	被害の情報収集		
(TV・ラジオ)	(数秒前)		防災無線			
被害	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">小今泉に水が到達</div>					
	○決壊しない場合 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">緊急放流で水位低下・点検</div>					
	※地震直後に決壊しなくても、数日後に決壊することがあるため、監視を継続					
行動の目安	少しでも安全な場所へ移る	いのちを守る	家族を守る 揺れがおさまったら、高台や安全なところへ避難	安全な場所へ避難	避難所などで待機し、市の指示待つ	

### 緊急連絡先

名称	電話番号
田村市災害対策本部 (田村市役所)	0274-81-2111 時間外・土日祝日 0247-81-1220
ため池管理者 (田村市産業部農林課)	0247-81-2511
消防・救急	119
田村消防署大越分遣所	0247-68-3899
警察	110
田村警察署七郷駐在所	0247-85-2121

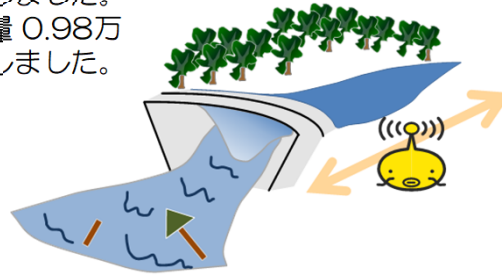
# 小今泉池 ハザードマップの見方・使い方

## ■ハザードマップの作成の目的

小今泉池ハザードマップは、万が一の事態でため池が決壊した場合、最大でどの程度の浸水範囲となるかを知るために最悪の状況を想定した浸水予測を行いました。住民のみなさんがハザードマップを通じて、想定される災害を事前に知り、自らの避難を考え、地域の防災力向上につながることを目的としています。

## ■ハザードマップの作成条件

現在起こりうる最大の危機を想定しました。ため池が満水の状態で、貯水量の全量 0.98万トンが下地域に流れ出す場合を想定しました。



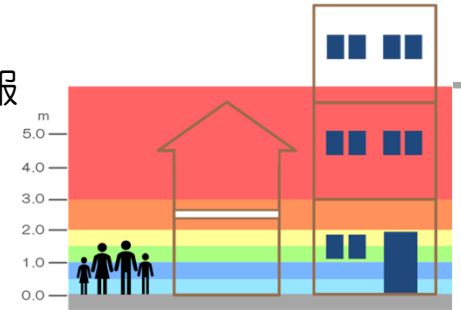
## ■そうってからでは遅い！ 早めの避難

浸水が始まってから行動したのでは、手遅れになる場合があります。あらかじめハザードマップで水がせまりくる状況を学び、万が一の事態が発生した場合の早めの判断、速やかな行動につなげてください。

## ■ハザードマップに載せる情報

### ① 場所ごとの浸水

場所ごとの浸水する深さを色分けして地図上に表示しました。



### ② 到達時間

ため池の水が到達するまでの時間を表示しました。

### ③ 避難場所

避難する場所を地図上に表示しました。なお、一刻も早い避難が必要な事態になったときは指定された避難場所によらず、近くの高台へ避難してください。



### ④ いざというときの心構え

いざというときの避難に備えて、日常から心がけておく事柄を記載しました。

### 地図を見る上でのポイント

- 地図の凡例を参考に、どこにどのような浸水が想定されているか確認しましょう(ハザードマップでは、水だけでなく、土砂や流木、地図上にある様々なものが押し流されてくる可能性があります。)
- 災害の状況によっては、避難所に向かうことが危険な場合があるので注意しましょう。
- 災害シナリオを参考に、災害の発生から避難完了までを考えてみましょう。
- 地図を片手に自分の家から避難所まで歩き、実際の距離感や、災害時に危険そうな箇所(地震時に崩れそうなブロック塀、大雨時に溺れそうな深みのあるところ)や、逃げ込める高台などをあらかじめ確認しておきましょう。